



## 東地中海地域ニュース

### イスラエル：米・イスラエル間外交・オバマ大統領訪問日程 (3月7日付現地各紙)

現地紙は、オバマ米大統領が6月にイスラエルを訪問することが決まったと伝えている。

1. 在イスラエルのアメリカ外交団に配布された通知によると、6月、オバマ米大統領は、イスラエル及び西岸を訪問する予定である。外交筋は、オバマ大統領が6月に訪仏し、サルコジ大統領と会談する機会に併せて、イスラエル及び西岸を訪問することを決定した。本訪問は、ネタニヤフ首相が5月に訪米する数週間後となり、二国家解決を目指し積極的な役割を果たしていくオバマ大統領のコミットメントを強調するものである。また訪問時にはイランの核問題についても協議するものとみられる。
2. 6日、オバマ大統領は、大統領就任後初めてイスラム国家であるトルコを訪問した。そこでおこなったスピーチの中で、パレスチナ問題に関しては、二国家解決及び核問題が主要部分を占めていた。オバマ大統領は、「米国は、平和裏にイスラエル及びパレスチナが隣同士に共存する2国家の目標を強く支持している」と述べた。また、二国家解決は「ロードマップ及びアナポリスで合意された目標である」と付言した。
3. オバマ大統領の訪問時には、ミッチェル米國中東和平担当特使が当地域を訪問する。イスラエルにとって、米国政府の決心の固さを確かめる初めての機会になる。ミッチェル特使は、イスラエルに二晩滞在し、西岸及びエジプトを訪問する。同特使は、ネタニヤフ首相、バラク国防相及びリーベルマン外相と会談する見込み。
4. なお、米国政府筋によると、オバマ大統領は、ブッシュ政権と異なり、オバマ大統領はパレスチナ拳国一致内閣にハマスが参画することに反対していない。ただ、ハマスとの外交関係を持つ前提条件としてカルテット3原則（イスラエルの承認、暴力行為の停止、イスラエル・パレスチナ間でなされた過去の合意の遵守）を強調していると語った。
5. 現在ネタニヤフ政権は、ロードマップ和平計画からナポリス・プロセスにいたるまでの政策について再検討している。5日、イスラエル政府高官は、「今後数週間、様々な問題に関して政策の再検討を実施する」と語った。
6. 各省に配布された新政権の外交政策に関するポイントは以下のとおり。
  - (1)イスラエルは国際的合意の義務を有する。
  - (2)対パレスチナ紛争の終結（イスラエル側からの譲歩ではなく、パレスチナ政府組織・経済の強化、またパレスチナによるテロ放棄によるべき）
  - (3)過去に合意にいたらなかったことは、パレスチナ側がうけいれなかったためであり、イスラエルをユダヤ国家として承認しなかったことに起因する。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799